

授業コード	JP44050010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	労働法 I		
英語科目授業名	Labor Law 1		
科目ナンバー	JAAPP8906	必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名 (代表含む)	矢野 昌浩		
科目の主題	労働契約法及び労働基準法を中心とする個別的労働関係法に関する講義を行う。		
授業の到達目標	到達目標は、個別的労働関係法（労働時間、休暇・休業、安全衛生・労災補償を除く）の法的論点を踏まえたうえで、判例や学説が何を論じているのかを把握することにある。		
授業内容・ 授業計画①	<p>以下のように講義を進める。①：判例集（判例番号）、②：テキスト</p> <p>第1回 体系・法源・仕組み、労働者、使用者、①：1・2・65、②：第2章第1章・第2章1・第3章1</p> <p>第2回 就業規則、①：18～21、②：第2編第3章3</p> <p>第3回 労働契約、①：55・86・22・24・25（参考判例23、26～28）、②：第2編第3章4</p> <p>第4回 雇用関係の成立、①：8・9・10（参考判例80）、第3編第1章1</p> <p>第5回 人事異動、①：61・62（参考判例59・60・63）、②：第3編第1章2-1(1)～(3)・(5)</p> <p>第6回 中間試験1（出題範囲：第1回～第5回）</p> <p>第7回 服務規律と懲戒、①：87（参考判例51～58・31）、②：第3編第1章2-2・第2章1-4</p> <p>第8回 雇用関係の終了、①：71・73・74（参考判例67～70・72・75～77）、②第3編第2章1-4</p> <p>第9回 賃金、①：29（参考判例30～32）、②：第3編第2章2-1</p> <p>第10回 労働者の人権、①：11（参考判例12・13・16）、②第3編第2章1-1・同1-3</p> <p>第11回 雇用平等、①：15・17、②第3編第2章1-2・同4-2</p> <p>第12回 中間試験2（出題範囲：第7回～第11回）</p> <p>第13回 パート・有期・派遣労働、①：78・79・81、②：第3編第3章</p> <p>第14回 企業組織変動と労働関係、①：64・65・66、②：第3編第1章2-1(4)</p> <p>第15回 期末試験（出題範囲：授業全体）</p>		
事前・事後学習 の内容	事前に質問項目を配布する。判例集（必要に応じて判例を追加で指示する）とテキストの該当箇所を読み、質問項目について考えて授業に臨むこと。事後は、授業で紹介した裁判例や学説などを読み、知識の定着を図ること。		
評価方法	絶対評価 講義の途中で、穴埋め問題・択一問題からなる中間試験を2回行う。期末試験は、判例をベースにした事例問題を出題する。評価の割合は下記の通りである。期末試験：60%、中間試験（2回計）：30%、平常点（講義における質問や議論への参加状況）：10%		
受講生へのコメント	判例集にでてくる判例だけではなく、質問項目に記載した判例はかならず読むようにしてください。質問項目等の配布には、Moodleを利用する予定です。		
教材	①：村中孝史=荒木尚志編『労働判例百選・第9版』（2016年、有斐閣） ②：水町勇一郎『労働法・第7版』（2018年、有斐閣）		